

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaisushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二―九〇四 電話・FAX(03)3299―5367

郵便振替 〇〇―一〇〇―九―五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

旬刊 **社会通信**

NO. 1344 二〇二一年九月一五日号

〈もくじ〉

■巻頭言■

新社会党と

新生社民党との連携について

混迷を深める新社会党

原野人：2

診察は五感をもって

―「グリモート診療」では難しい―

小林 誠一：3

アメリカが負けた！

―情勢について(五)―

伊勢 太郎：5

横浜市長選と衆院選

：6

齋藤君はマルクスをどう歪めているか (二)

滝野 忠：7

◇信州松本通信◇

経済学はロビンソン物語を愛好する 中澤 秀行：10

―松本市音楽文化ホールの運営に携わって(三)―

読者からのおたより ……………12

二〇二一年九月一五日発行
(毎月一日・一五日二回発行)

新社会党と新生社民党との連携について

混迷を深める新社会党

いのちの安全保障を考える「共同テーブル」の発足

評論家の佐高信さんが発起人代表となる「いのちの安全保障を考える『共同テーブル』」が発足した。（『週刊新社会』8月24日号、1、2頁）

同紙によると、発足の契機になったのは「宣言」にあるように、「新生社民党」が「新社会党や緑の党をはじめ、基本政策が一致するリベラル・革新の、多くの政党・政治団体・市民団体と日本の政治を変えるためにネットワークを強化する」態度を打ち出したことにある。要するに新生社民党のための『共同テーブル』である。

26名の発起人と200余名の賛同人が得られたという。

佐高信さんといえば、社会主義のお嫌いなかたで、新社会党は社会主義を捨てるべきだと語っていたことが想起される。社民党を盛り立て、返す刀で社会主義政党を消し去るという「共同テーブル」に隠された意図を、多くの発起人も賛同人も知らない。法政大学前総長の田中優子さんもその意図を御存じないお一人であろう。

新生社民党にとっては政党要件をとって生き残ることが最大の目的である。

頽廃した我が党の首脳部

我が党はどうかというところ、科学的社会主義の階級闘争路線などはどうでもよいと考える最近の首脳部は、B Iだ普遍主義だと、小ブルジョア理論で党を大いに混迷させてきた上に、社会主義政権を樹立して独占資本を収奪し生産手段を労働者民衆の共有物に転化するなどという長期目標を捨てて「リベラル・革新」となって、嬉々として社民党に全面的に協力しようとしているように見える。共同戦線党になっても良い、いずれ社民党と合同してもよい、とさえ考えているふしもある。

科学的社会主義の消滅

「新生」などと付けてみても所詮は社民主義の社民党である。福島党首は「社民党は国会の中で社会民主主義の政策を実現すると言っている唯一の政党」であることを売りにする。服部幹事長も「社民党宣言を堅持する」という。「社会民主主義宣言」では、「社民党が社会民主主義を掲げている政党」であることを高らかに謳っている。

社民党の政党要件維持が「共同テーブル」の絶対的な目的となる。したがって、ヘゲモニーは社民党がにぎることになる。

社民党が議席をとり、政党要件を確保すれば、そこでは「社民党宣言」により、社会民主主義が堅持され、他方では科学的社会主義は白眼視され自然消滅する。

当面はもし「オリーブの木」方式をとるとしても、早晚合同へと進めることは目に見えている。社民党への合流は、わが退廃首脳部の隠れた念願ですらあるらしい。

いま速やかに必要なこと

新社会党が理論的、路線的に近いのは、社会主義を捨てて資本主義（独占資本の支配）を前提にした社民主義を掲げる社民党よりも、綱領路線に大きな誤りを含むとは

いえ社会主義をめざす共産党である。多くの社民党員を飲み込んだ立憲民主党には、社民党と基本的な違いはない。我々は基本的な政策と路線の違いで25年前に決別した社民党と、未練がましくも見苦しく特に親しくするには及ばない。

新社会党は共産党とも、立憲民主党とも共同のテーブルに着くべきである。まずは立憲民主党でも共産党でもない第3極の結集をなどといっても、新社会党を2極に割りながらでは何の力にもならない。

改憲阻止や反原発、辺野古基地建設反対等々の市民運動を担っている皆さんにも、新生社民党と新社会党とで「第3極」を作るべきだなどと主張する声は聞かれない。

改憲阻止を基本とする諸政策に必要なのは、自民、公明、維新に対決する諸政党、諸政治勢力の結集であり、積極的な共闘の推進である。

(原 野人)

診察は五感をもつて

——リモート診療——では難しい——

昨年は大きな災害やできごとが多くあったにもかかわらず、すべてコロナで覆われてしまった1年でした。今年はこのコロナ禍が収束する年になるよう願ってやみません。さくら医院は今、開院当初の姿になっています。職員一同初心に立ち戻って診療に力を尽くす所存です。引き続きよろしくお願いいたします。

《投稿 食欲は?》

小林先生は、伺ったときいつも「食欲は」と聞いてくださいます。これは若い人がお腹がすいて何か食べたい、手当たり次第に手を出す食欲ではなく、三食きちんと食べているか尋ねてくださっていると受け止めています。

年齢を重ね、特に一人になると食事をふとパスしてしまいたい思いに駆られることがあります。外出しても近所だけで空腹感を感じないことが多いです。それに、新たに作らず、ありあわせの物で間に合わせることはしよっちゅうです。何種類かの野菜を炊き合わせた煮物など、たくさんできてしまうので、何食同じものを食べるでしょうか。

でも三度の食事をきちんと摂ることの大切さを忘れないように尋ねて下さっていると思います、ありがたく受け止めさせていただきます。

今日は、小分けして冷凍してある肉を出してきました。今夜は肉じゃが風かすきやき風にでもしましょうか。(86歳 東恋ヶ窪) (健康メモをお読みください 小林)

《健康メモ》

投稿の内容があんまり嬉しくて、ついいつもと構成を変えてしまいました。

健やかな日々というのは、煎じ詰めれば食事がおいしく、お通じが苦痛なく、過不足なく眠れるということに尽きるのではないのでしょうか。高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの慢性疾患はコントロールが適正であれば症状はありません。

したがってこれらの患者さんの診療はコントロールの維持とともに、健康管理の側面が強くなります。

その際上記の三項目が多くの情報をもたらしてくれます。特に食欲の変化が大事だ

と常々感じています。なぜなら食欲は身体的な異常のみならず、精神的なストレスなども強く反映するからです。質問に対して「旺盛です」と答えていただくとは本当に嬉しくなります。「まあまあです」は合格ライン。「あまりありません」に対しては空腹感の有無、吐き気や腹痛などの消化器症状の有無、悩み事など精神的なストレスの有無などについてお聞きします。

味覚の変化も大切で、ある種の疾患では本当に「砂をかむような」状態になるそうです。「おいしくない」と答える方は割合多くいらつしやいます。その理由は「一人で食べるから」が最多です。お一人で暮らしていても、友人などの会食を楽しむことはできますがコロナ禍ではそれもままなりません。現在当院の2階はレントゲンのみに使っています。水道もガスもあります。

食事会のようなことができないかなあ、など考えてはいるのですが。

《リモート診療》

話は変わりますが、コロナ感染症の流行を受けて「リモート診療」なるものが脚光をあびています。現政権は、コロナ後においてもこれを推進する意向のようです。離島や過疎地など医療機関へのアクセスが悪い地域では有効な手段と思いますが、あくまでセカンドベストです。古いといわれるかもしれませんが、診察は五感をもつておこなうと教わり、不十分ながら実行してきたつもりです。

患者さんが診察室のドアを開けた時から診察が始まります。歩き方・姿勢・表情・顔色など。椅子に座ってからは話し方、質問に対する答え方、そして臭い。触診では皮膚の湿り気や乾燥度、正常でないものの触知。こういったものが実に多くの情報を提供してくれます。こんなことがありました。

年に一度定期的に胃の検査をしている方です。電話で予約して来られたのでお目にかかるのは1年ぶりです。表情が以前と比べて変化しているように思われました。とりあえず検査をし（胃は異常なし）、話を伺いました。ご本人は自覚されていないのですが、「そういえば少し歩きにくくなっていくのが年のせいと思っていた」とのこと。関節の動きにも異常が見られたため専門医に紹介、確定診断を得て治療が開始されました。この方は目の前に来られたからこそ診断に結び付いたのだと思います。「リモート診療」ではかなり難しかったです。

わたしたちの住む町は―過疎地などに住む方には申し訳ないほど―医療機関への受診が容易です。コロナ流行の状況下での一時避難的な利用はともかく、情報量の少ない方法をあえて選択するメリットは多くないと思います。

《初夢もどき》

現在、地球温暖化やプラスチック汚染など環境問題への対策が喫緊の課題となっています。また最近のSDGsなる言葉で環境に負荷をかけない成長が提案されています。しかし一定程度の生活レベルに到達した地域や国で、これ以上の「成長」（とくに経済の）が必要なのかと疑問にも思います。

「成長」とか「環境」とかの言葉を聞くと、落語好きの身としてはつい江戸時代に思いを馳せてしまいます。江戸の人々の暮らしはかなりエコロジカルだったようです。

庶民の服は多くが古着（リサイクル）、紙は何度も漉きなおして再生紙に。排泄物は近郊農家の肥料として現金化。「竈（かまど）の灰までおれの身代だ」との台詞があるようにこれも肥料として現金化。多様な金属はあっても、高分子化合物などどこを探してもありえません。すべては土に帰ってしまいます。したがって河川の汚染など起こりようもなく、きわめて環境に優しい生活です。

ただ医療者からみると一つの穴があります。それは疾病対策です。この時代の死亡原因の多くは細菌やウイルスによる感染症です。そのため平均寿命が短く、癌の好発年齢まで生き延びるひとは多くなかったようです。ここに細菌を殺す抗菌剤や天然痘やはしかなどの感染を予防すワクチンがあったらどうでしょう。まさに（環境にとつて）理想的な社会の出現だ、と思いました。

しかし電力がない。これがなければ薬品の合成はできませんし、保存する容器を作ることでもできません。仮にできたとしたら、感染症による死亡が減少し人口の急激な増加が見込まれます。人口の増加はそれ自体が環境への負荷となります。ここにきて夢はしぼんでしまいます。しかし江戸期の生活の中に、現在の課題に対する何らかのヒントが隠れているような気がしてなりません。

「さくら医院」さくらだより」（2021年1月4日） 小林誠一

アメリカが負けました！

― 情勢について（五） ―

アメリカがアフガニスタンのタリバンに負けた。20年のアメリカの対アフガン侵略戦争はアメリカの敗北で「終わ」った。地球上のすべての地域に基地をもち、進歩と革命勢力を血の海に沈めてきた、世界最大の帝国主義国が世界の最貧困に負けた。世界史転換へのたしかな歩みである。

メデアはアフガン政府を「民主政府」「文民政府」という。これは正しくない。アフガン政府は01年、アメリカがアフガンを侵略、占領。アメリカ「かいらい」政府であった。今の政府のガニもそうである。大統領ガニはタリバンの攻勢の前に、国民そして仲間を見捨て逃亡した。権力者の実態はいつでもどこでも同じである。われわれは沖繩を思う。かいらい政権はアメリカに飼われた犬、ポチである。

これはアメリカと連合しアフガン侵略に加担したNATO諸国にもいえる。アフガンがアメリカに侵略されたのは2001年9月、「同時テロ」の報復としてであった。日本もこれに加担した。02年、東京でアフガン復興支援国際会議がアメリカ、サウジアラビア、EUそして日本を共同主催国として開かれた時、日本はODA援助5億ドルを約束したのを手はじめに、01と21年の支援額は66億ドルにもなる。戦争にも参加した。海自が出動、給油支援をおこなった。

タリバンはこうした行為は忘れはしない。日本の権力機関は報復を恐れる。だから、NATO諸国、日本の外交官はさっさと逃亡した。アフガンに在留する国際機関員や日本外交の助手を務めた協力者は取り残された。

アフガンはかいらい政権下、汚職と腐敗の国となった。GDPは193・6億ドル 予算52億ドルの国の国防予算は20・6億ドル。予算、軍事費はすべてアメリカを中心

とする外国のぼう大な支援でまかなわれた。その額は軍事費だけで1兆ドル、民生ふくめれば2兆ドルといわれる。権力者と同盟する軍閥、部族の親分は、これら支援で私腹を肥やす、腐敗と墮落である。

アフガン人民は歴史的に英雄的な民族だ。19世紀には西進するロシア、そしてイギリスとたたかった。第三次1919年のイギリスとの戦争で勝利し独立を勝ちとった。20世紀後半、1980年にソ連が介入した。アフガン人民は1989年ソ連を追い払った。そして21世紀アメリカを。

タリバン結成は1994年、イスラム原理主義の神学生がつくった武装集団とされる。政権樹立は1996年である。厳格なイスラム法にもとづく統治がおこなわれ武装集団の基地になったとメディアは伝える、アルカイダーである。ビン・ラディンが率いたこの反米集団がアメリカに戦争を開始した。「9・11同時テロ」である。アメリカが「戦火」にあったのは独立いらいこの時がはじめてである。

報復、侵略戦争は20年を超えた。のべ15万人の兵士が派遣され、戦死者2000人超―アフガン人の死者はその30倍といわれる。厭戦（えんせん）気分が米、NATOにひろがった。アメリカの関心は中東から中国へと変わった。中国への兵力集中、アフガン撤退である。バイデンは国務長官、副大統領ハリスを東南アジアに派遣し、中国に対抗する。

タリバンはアメリカを追い出し、権力を握った。混乱は当然でありつづく。今後の国づくりと政策が注目される。

（伊勢 太郎）

横浜市長選と衆院選

自民政治は腐敗、墮落、ウソとごまかし、怠慢、おごりで腐臭から死臭に変じた。菅政権から1年、国政3つそして3つの知事選、衆院選に直結する都議選、横浜市長選すべてで自民は負けた。共闘の力の一つの要因にちがいない。しかしその背後で共闘へと野党を駆り立てる、まだウネリとなつてはいないが国民の不満、不安、怒りの蓄積が大きい。

横浜市長選、横浜は菅の地元である。選挙は自公対立憲・共産・社民、プラス20万署名の力、保守対進歩の対立となった。進歩の山中竹春氏は無名の大学教師、片や保守の小此木八郎氏は大臣を辞め立候補した世襲代議士で横浜政界のドン。小此木氏は自民が推進するIRに反対を宣言してみせた。めくらまし、自民のアセリと不安のあらわれである。その小此木を菅をはじめ自民党のボスどもが支援した。林市長はIR推進で立候補、自民分裂である。菅自民と小此木の関係に政治の墮落がある。口先一つで横浜市民をだませると考える墮落である。

山中さんが勝った、勝ち方がものすごい、開票は9時15分と伝えられた。ところが投票が閉め切られた8時には「当選」の報。出口調査、楽しくない。戦いの過程を切り捨てる。横浜市は7つの小選挙区に分かれる。自民が勝ったのは一区だけ、菅も負けたし小此木も選挙区で負けた。

感染爆発もあった。選挙中にだ。勝ち方のすごさは票の出方にあった。横浜市民は「われらが宰相、なにやってる」と菅への批判がここでも天を覆った。

最大野党の幹部には「衆院選は自民を圧倒できる。地崩れの勝利をおさめられる」との根拠なき楽観論がみえる。昔の支持率は下がる。しかし自民の支持率は下がらない。野党支持率も上がらない。自民は大きな組織をもつ。野党とりわけ立憲民主党は組織が弱い。総選挙は組織と組織の戦である。組織強化の努力が政治の力である、「風」はかわる。

斎藤君はマルクスをどう歪めているか (二)

ユートピア

プチブルインテリたちは現実を飛び越え、さまざまに妄想します。資本主義の根本矛盾がどこにあるか、『資本論』がどのように社会変革へ必然性を明らかにしたかなど考えることはありません。とにかく彼らは忙しいのです。彼らにとって政策は商品ですから。そんなところから生まれてくる社会主義的政策はユートピア、空想です。

上野反合研の仲間は、斎藤幸平氏の『人新世の「資本論」』149～155頁に見える斎藤氏のマルクスへの改変についても次のように議論しました。

「共産党宣言時代のマルクスは生産力至上主義」「生産力の上昇が社会主義への条件を整備」「進歩史観＝唯物史観は、生産が環境にもたらす破壊的作用を無視」と斎藤氏は言っているが、それでは、労働者は資本家の生産性向上運動に協力しなければならなくなってしまう。

彼が「宣言」にあるブルジョアジーが生み出した巨大な生産力を「マルクスが賛美した」とするのは曲解極まるもので、直後に書かれている「生産力と生産関係の矛盾」(「宣言」岩波文庫46頁)を導き出すための記述であることを、捻じ曲げるものである。生産力が伸びれば社会主義に発展するものではなく、「生産力と生産関係の矛盾」、具体的には「社会的生産と取得の個人性の矛盾」「資本に対する労働者階級の階級闘争」が必要であると。

「マルクス本」

散歩ルートには巨大書店が1つ、中書店が2つ、小さな書店が1つあります。「マルクス本」が目につきます。内容はめちやくちや、マルクスをおとしめるものではないかもしれませんが。書名にはだまされてはいけません。斎藤君の本も同じです。若い「学者」には似合わないほどに「やさしく」「大衆受け」するように編集されています。だから、『資本論』、経済学のことを知らなくてもよくわかるような気がするというわけです。

この本ははじめからおわりまで、マルクスをねじ曲げ、歪曲し、最後は抹殺してしまっています。どのようにであるかを、斎藤幸平氏へのインタビュー『あの人にせまる コミュニズムが人命と環境を守る』(東京新聞、21年2月20日)、『資本主義のグレートリセットが必要だ』(週刊東京経済、21年4月10日)を中心に考えてみます。著作は小さいけれど、彼が知ったことを「重箱」にご飯を詰めるように詰め込まれています。ですから必要な限りにおいて著作を参照することにします。

マルクスばやりのわけ

なぜ今、マルクスなのでしょいか。資本主義の諸矛盾が発現、蓄積し、資本主義への批判、資本主義に変わる社会への欲望がふくらんでいるからです。矛盾の根本を考え、理論を実践するのはマルクス主義者だけです。副次的矛盾は浜の真砂ほどありません。いま焦点になっているのは副次的矛盾の格差そして環境です。

斎藤氏は資本主義を「てっぺい」的に批判してみせています。その批判は現象だけです。資本主義の基本矛盾にはいつさいふれられませんが。彼が関心をもつのは環境です。「人類の経済活動が、環境を破壊し尽くす『人新世』と呼ばれる時代に突入した」、ぼくは、マルクスを環境保全の観点からとらえ、資本主義批判の「新たな」対案を示した。環境破壊の根本は「無限の経済成長を求める資本主義」、だから資本主義には緊急ブレーキをかけない限り、危機から脱する道はない。その方策がぼくが発見した、「脱成長コミュニティ」とのたまわくのです。

上野反合研の仲間が正しく指摘する唯物史観の否定、彼の「つくりごと」である「生産力説」云々からマルクスをつくりかえてしまうのです。資本主義の矛盾は吹き荒れています。コロナがそれに棹をさします。資本主義の「改造」法、「新しい社会主義像」の制作に忙しいプチブルインテリたちは時節到来と口角泡をとばします。

そんな本が使用価値ある商品として流通するのは、社会主義に展望を失った「社会主義者」「元社会主義者」たち、無政府主義的インテリたち、本当に安心してくらせる社会を望む若者たちの思い、社会主義への思想というよりぼんやりした感情、マルクス主義を死滅させてやろうと行動する商業メディアの思惑がないまぜになっているからです。

以下上野反合研の仲間とともに斎藤氏の「思想」を批判していきましょう。

斎藤の「殺し文句」

斎藤君の社会認識はたいへん平凡かつ常識的です。くり返しますが、問題意識は気候変動です。人類の生産活動は地球を破綻の危機においこんでいる。放置すれば破局を迎える、対策が必要というだけです。

斎藤君の殺し文句は「資本主義が悪い」、環境破壊は資本主義の限らない利潤追求、経済成長が悪い、社会のしくみが資本主義であるかぎりともまらない、です。

「元社会主義者」「社会主義者」は「資本主義が悪い」に酔っ払わされてしまっています。日常活動に追いまくられ、「忙しくて学習なんてやってられないよ」、こうして脳細胞は枯死していくところに、「マルクス本」、「ぼくは修正資本主義者、分配を公正にしなくっちゃ」なんていう連中に幻想をもたされるのです。

SDGsという資本の攻撃もその一つです。斎藤君は若いのに大ボラが吹けるなかなかの「玉」です。「SDGsはアヘンである」、とこれまたマルクスを言葉だけ知っている「元社会主義者」たちの心をくすぐるのです。なかなかしたたかな若者です。まるでエレキが魚をシビレさせるようにです。

マルクス主義

斎藤君はマルクスの学説を根本的に歪め、マルクスの思想とはまったく異なった「マルクス像」を展開しています。マルクス、エンゲルスの思想をじっくりと時間をかけて熟読する学びは、学問の世界ではとつくの昔になくなっていきます。

斎藤君のまちがった「マルクス論」を考え、批判する前に、マルクスの学説の根本を示しておかなければなりません。正しい尺度こそ批判を説得あるものにするからです。第一はマルクスの基本的思想は唯物論的歴史観にもとづくことです。エンゲルスはマルクスが死んだ直後の『共産党宣言』ドイツ語版(序文1883年6月28日)に『宣言』をつらぬいている根本思想は次のことである」と、こう記しています。

「おのおのの歴史的時期の経済的生産およびそれから必然的に生れる社会組織は、その時期の政治的ならびに知的歴史にとつて基礎をなす。したがって(太古の土地共有が解消して以来) 全歴史は階級闘争の歴史、すなわち、社会的発展のさまざまな段階における搾取される階級と搾取する階級、支配される階級と支配する階級のあいだの闘争の歴史であった。しかしいまやこの闘争は、搾取され圧迫される階級(プロレタリア階級)が、かれらを搾取し圧迫する階級(ブルジョア階級)から自分を解放しうるためには、同時に全社会を永久に搾取、圧迫、および階級闘争から解放しなければならぬという段階にまで達した。―この根本思想はただマルクスだけに属するものである。

私はこのことをすでにしばしば明言した。だがいまこそ、このことを『宣言』自身の序文としても書いておくことが必要である。」(岩波文庫、10〜11頁)

第二は『資本論』はさきの唯物史観にもとづいて資本主義の発展法則が明らかにしていることです。『資本論』第一版序文にはこうあります。

「私がこの著作で探究しなければならぬものは、資本主義的生産様式であり、これに相応する生産諸関係および交易諸関係である。その典型的な場所は、今日までのところイギリスである。これが、私の理論的展開のおもな解明になぜイギリスを用いるかの理由である。だが、ドイツの読者がパリサイの徒のようにイギリスの工業労働者や農業労働者の状態について肩をすくめ、あるいはそれと同時に、樂觀的に、ドイツではことはまだ永い間そんなに悪化はしないのだとみてみずから慰めているとすれば、私は彼にこう呼びかけなければならぬ。De te fabula narratur [「ハ」]で報告しているのは君のことなのだよ!」と。

それ自体としては、問題は、資本主義的生産の自然法則から生ずる社会的敵対関係の発展程度の高いか低いかということにあるのではない。問題として取扱うのは、これらの法則自体であり、鉄の必然性をもって作用し、そして貫徹するこれらの傾向なのである。産業的により発達している国は、発達程度のより低い国にたいして、その国自身の未来の像を示すだけのことである。

〔岩波文庫(一) 13〜14頁〕

変革の主体

ぼくは悟った、発見した「後期マルクス」の諸文献の中心にとのたまわく、こうで

ある。①晩年のマルクスはエコロジヤや非西欧社会を熱心に研究し、技術楽観論—これの意味することは唯物史観—を捨てた。②それどころか平等を持続可能性のために「脱成長」の立場を受け入れた、と。この見解はウソとデタラメの塊です。

こうして、経済成長のため競争をやめ、今ある富をシェアする方向への転換をめざす「脱成長のコミュニズム」を提起するのです。

ここでも「元社会主義者」「社会主義者」の心がくすぐられます。「脱成長のコミュニズム」、「共産主義」を掲げているからです。「共産主義」はわれらの理念、彼らにすれば、云いたくても云えなかったことを云ってくれた、斎藤さまさまというわけです。そして彼は、大昔にもてはやされた「コモン」、—空想的社会主義者や近現代の無政府主義者、プルドンの主張であった共同体、協働組合、相互扶助—こそが、「共産主義」への道を開くと大はしやぎです。

どのように「コモン共産主義」は成立するのか、「コモン」をふやしていくことによって、3・5%の市民大衆が非暴力の方法で起ち上がることによって、これはユートピアにほかなりません。

歪曲

斎藤君の「後期マルクス」論は、マルクスの思想の歪曲、事実の改悪、ウソの塊です。次の三点を中心に、斎藤君の「思想」を検討、批判していきます。

第一は唯物史観を「生産力主義」と改ざんしていることです。

1、「宣言」で展開されているマルクスの唯物史観は、生産力至上主義であり、マルクス自身はこれを晩年に克服した（『人新世の「資本論」』149頁）。

2、私をはじめ近年のマルクス研究者によって明らかになっているのは、晩年のマルクスがエコロジヤや非西欧社会を熱心に研究し、技術的楽観論（生産力主義≠唯物論）を捨てたという事実である（『週刊東洋経済』4月10日 斎藤幸平とのインタビュー）マルクス主義への悪意ある大ウソ。

3、それぞれどこか、これも歪曲、ごまかしです。最晩年には、平等と持続可能性のために『脱成長』の立場を受け入れていた（同）。

第二は、晩年のマルクスの生活と勉強をウソで塗りつぶしていること、二巻、三巻がマルクスの手で実現できなかったこと、エンゲルスの編集にいちやもんつけていること、そして最後に批判しなければならぬのは「コモン」です。（滝野 忠 つづく）

◇信州松本通信◇

経済学はロビンソン物語を愛好する

松本市音楽文化ホールの運営に携わって(三)

(六) 演奏会のチケットを完売するには ～一つの例として～

一つの演奏会が開催されるまでには、企画立案してから二年から三年の月日を費やすようにしてきました。そして大切なことですが、発売日にはチケットの行き先が大方決まっている状態にしておくということです。

松本市音楽文化ホールを定期的に利用する松本交響楽団や松本混声合唱団といった

音楽団体は、約60団体あります。他に営利目的の音楽教室としてヤマハやカワイの音楽教室、またここで教えていて独立した個人の音楽教室等の方々、こうした人達と一緒に2年〜3年の時間を費やして、演奏会を作ってゆくことです。

たとえば、ヤマハ音楽教室のピアノ科の先生たちと懇談し、ヤマハ音楽教室の出身者でチャイコフスキー国際コンクールにて優勝した上原彩子（ピアノ部門で日本人初のグランプリ）の演奏をやりたい旨を話しましたら、大いに喜んでくれました。こうした時、演奏会でのプログラムの曲目解説は、ヤマハの先生にお願いします。また、情報誌『ハーモニ』での演奏者との対談記事も、お願いします。

結果してこの演奏会では、県下のヤマハ音楽教室の先生と生徒や父兄の方々だけで約四百人が来館してくれました。このようにして県下から集客ができる時、そして子供さんも多い時には、土日のマチネ演奏会にします。来館者の都合も考えます。世界三大コンクールの一つであるチャイコフスキー国際コンクールの優勝者ですから、松本市内のピアノ教室等への働きかけ、そしてまたピアノ好きの音楽愛好家も多いのですから、チケット完売となります。

（七）『資本論』の経済学は「ロビンソン物語を愛好する」

百瀬嘉郎さんから頂いた本に『社会主義——古くて新しきもの——』（向坂逸郎著 河出新書）があります。この書籍の冒頭に収められている「社会主義社会について（一）」と「社会主義社会について（二）」があります。

ここでは、「ロビンソン・クルーソー物語は、子供の時読んだ本のうちで最も印象の深い本で、いく度読んだか分らない。私が一生のうちで、一番幾度もくり返して読む本は、このロビンソン・クルーソーと『資本論』ということになるかもしれない。」と記されています。幾度もくり返して読むのは、デフォアの『ロビンソン・クルーソー』とマルクスの『資本論』だということです。この論文は、『社会主義』一九五三年五月号、七・八月合併号初出であります。『社会主義』一九八九年十月増刊号に再録されていますから、読まれた方もおられましょう。是非再読をおすすめします。

マルクスは『資本論』で、「経済学はロビンソン物語を愛好する」とし、「ロビンソン物語」を要約して述べた後に、「この中には価値の一切の本質的な規定が含まれている。」（岩波文庫版第一分冊138〜139頁）と記しています。

ロビンソンは生きるために自然に働きかけ、生産します。その労働は、労働時間を、異なった各種の生産物を生産するために、精確に時間の配分をします。労働時間の明細表があるというわけですが、これが大切です。

要するに、物事はロビンソンのようにすること、これです。

（八）なぜ公営にこだわったのか

私はまた何よりも松本市音楽文化ホールの委託に反対し、直営堅持のために仕事をしていたつもりです。それは、エンゲルスの次の一文を念頭に置いていたからです。

「株式会社になっても、トラストになっても、また国有が実行されたとしても、生産力の資本的性質はそれでは廃棄されない。」近代国家もまた、労働者や個々の資本家の侵害に対し、資本主義的生産方法の一般的な外的諸条件を維持するために、ブルジョア社会がつくりだした組織であるにすぎない。」と述べ、そして「生産力の国有は、衝突の解決ではないが、それ自身の内には、この解決の形式的手段、すなわちそ

のハンドルがかくされている。」「『空想より科学へ』岩波文庫版82〜83頁）、そしてまたエンゲルスは、「資本主義的生産方法は」「すでに社会化された膨大な生産手段をだんだん国有化させるが、そのことのうちに、この変革完成の道が示されている。すなわち、プロレタリアートが国家権力を掌握すると、それがまず生産手段を国有にするからである。」「『空想より科学へ』岩波文庫版85頁）、と述べます。このことは重要です。

さて、行政改革、すなわち行財政改革は、国有なり地方自治体による公有のものを民営化し、また新たに作るものは公設民営化として、実施してきました。要は、世界の要望に応え、資本主義的生産様式の延命を図ったということです。資本の価値増殖のための行革であること、肝に銘じなくてはなりません。

（2021年7月3日 中澤 秀行）

〔追記〕 残念ながら私が職場を去って三年後、今から三年前に、松本市音楽文化ホールからは市役所職員は全員引き上げとなってしまいました。現在松本市が関係する財団として現存していますが、民間委託への道がより開かれたかどうか、委託への道を大きく踏み出したことを意味すると思います。

◇読者からのおたより◇

上野反合研「唯物史観」学習会 暑い夏とビークの見えない感染拡大が続いています。いかがお過ごしでしょうか？ 次回学習会は、8月27日（金）夜の予定ですが、東京都の感染爆発という状況に鑑み、ZOOMを利用しての、オンラインにての開催に変更となります。時間は19時30分〜21時30分を予定しています。ZOOMをやったことがなく今回初めての方、不安を感じる方、早めにご連絡ください。練習します。

学習会の範囲は、前回の残り部分と、レポーターSさんの担当になる第4章（83頁〜）を行います。ZOOMでは読み合わせしませんので、ぜひ事前に読んでください。私と、Sさんのレジュメをお送りします。

なお、次回討議資料の一面記事をどうしようか、悩んでいます。今、何を職場に伝えるべきか、皆さんご意見をお寄せください。総選挙に向けての問題意識、職場の合理化・コロナ対策、労働運動上のぶつかりなど、報告があればお願いします。

また今回、向坂逸郎の「三池の労働者と共に」を添付します。労働運動に現役で頑張っておられる皆さん。何を目指して、何を考えながら、何をやらなくてはならないか、改めて勉強になると思います。なかなか手ごろな文献がない中で、今後探してお送りいたします。（森 勉）

帯広へ行ってきました 8月20〜22日に毎年夏恒例となっている元国労の仲間たちとの帯広・道東交流会に行ってきました。昨年の交流会の中で、滝野さんへの参加要請があり、その場で電話し快諾して頂き今年は2人で行く予定でした。帯広では滝野さんの講演を準備していましたが、滝野さんが急病（帯状疱疹）にて取りやめとなり、私が代役を務めました。

1日目は帯広で元国労の仲間たちと交流会。2日目の午前は十勝ユニオン主催の学習会です。NHKで1995年に放映された「三池闘争」のビデオ鑑賞、この後私から三池、国労の歴史や経験、そして現在の労働運動の現状を踏まえて、労働運動再建の展望について話しました。会場には、道議会議員の池本さん（元国労本部青年部長・元十勝地区労議長）、田中井さん（元帯広支部委員長・元釧路地本委員長）をはじめ、元協会病院労組委員長の北村光明さん、根室本線の災害復旧と存続を求める会新得代表の平良則さんらが参加していました。

池本さんは私の若き日の恩人の一人で、50年来の友人でありお会いできてうれしい限りです。田中井さんは分割・民営化後の国労帯広支部・釧路地本でご尽力頂いてきた方です。ゆっくりお話しする時間がなく残念でした。忙しい中、顔を見せてくれただけでも感謝しています。網走の鈴木孝さんも遠くから駆けつけてくれました。

午後は、場所を士幌町のコテージに移し親睦会です。例年ですと、網走の鈴木さんをはじめ、紋別・美幌・網走など道東の元国労組合員を含めて行ってきましたが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大中で、まだワクチン接種を終わっていない仲間もあって、今回は帯広の仲間達との親睦になりました。7月は猛暑が続いた十勝地方もお盆を過ぎて急に涼しくなり、私にとっては寒いほどでした。

国労上野支部から池田町に戻った小原稔さん、高崎地本から浦幌町に戻った高橋繁さんをはじめ仲間たちと1年振りに国鉄闘争の思い出やエピソードなど時間の過ぎるのを忘れるほどでした。

熾烈な闘いを経験した皆さんは素晴らしい仲間達です。元気である限り毎年訪問したいと思っています。来年は滝野さんと共に。毎年、準備を担当して頂いている樋口浩二さんには改めて感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。(山下俊幸)

今思うことです 自分なりの考えをまとめましたので、とりあえず送付いたします。

東京は、感染爆発地に貶められました。心ある医師たちの忠告は、無視され、感染症分類の5類格下げもされず。悪質な風邪なのに、生物兵器なみ「生物兵器なのですが、殺人一本でなく、ワクチンに誘導する戦略兵器」の大仰な扱いを発令され、イベルメクチン・アビガンなどで、初期感染なら簡単に治るのに、肺炎になるのを自宅で待たされています。恐怖で思考停止され、毒性のあるスパイクタンパクワクチンを打つことに取れんさせられています。

ワクチンの、人の体内で、コロナの表面のスパイクタンパクだけを人の細胞中で作らせるという戦略は、副反応の血栓症状の多発・死亡者の多さの現実でもわかるように、すでに破綻していることが判明しています。スパイクタンパクの毒性が判明して来たということです。さらに、ワクチン優等生のイスラエルでも、接種者が未接種者と平等に感染しています。集団免疫の形成などの戦略は、変異株の蔓延でこれもまた破綻しています。

政権は、オリンピックでも明らかになったように、火事場泥棒さながらに日本の勤労者が蓄積した年金財源・郵便貯金・国民皆保険などを国際金融資本と食い漁り、暴利をむさぼるばかりです。愛国者という右翼自民は、偽物だったことがますます明らかになっています。人権と自由を守る私たちは、このもつともらしいファッショ的動きを少しでも何とかしていかねばならないと思います。

今日は、災害拡大(大雨)で、携帯も通じぬ山の中にて、東京の医療崩壊を目前に、この陰謀論まがい丸出しのびっくりされるメールをせざるを得なくなりました。周囲に、個人輸入したイベルメクチンを配布する努力のみしております。年老いた私の最後の時間に、このような極悪な世界金融資本・支配層の政策が行われようとは、考えてなかったのですが、ボーダーレスの彼らの本気の攻撃のようです。(2021年8月12日、藪 芳郎)

返信(追伸) (1)いくつかのブログ、論文等読んでいますが、新潟大学の岡田雅彦先生の意見がよくわかります。<https://indeep.jp/anxious-effects-of-these-vaccines-can-sometimes-be-permanent/>

(2)カナダのブライアム・ブライドル教授のスパイクタンパクが「毒素」という指摘が発表されています。※緊急承認され治験として全世界で使用されている未検証の遺伝子ワクチンの危険性。

① ADE (抗体依存性感染増強)を引き起こし、悪玉抗体を産生させ、感染拡大に寄与するかも、②スパイクタンパクを作り続ける細胞を免疫システムが攻撃し、自己免疫疾患として病状が固定される、③スパイクタンパクが血管内皮細胞を攻撃し、血栓形成が拡大し、各所の血管の梗塞を引き

起こす等の副作用が想定され、現に結果が現れている。

・ 大量の接種後の死亡者（かなりの未報告の死亡者が想定される）：心筋・脳梗塞多発、
・ ワクチン接種後に相関関係を示す感染増加、
・ 血液中を循環するスパイクタンパクの検出、
整理できておりませんが、いろいろ学び記憶に残っています。

そもそも、インフルエンザの予防接種と同じで、型が変化すると特異性の強い抗体は効きませんから、デルタ・ラムダなどの変異株に効果は期待できず、集団免疫などあり得ないでしょう。

私の知る限りのワクチンの不備(?)についてです。ワクチンが生物兵器という説もありますが、まだはつきりしません。多数の死者が拡大していけばこの説もありかと。(8月21日、藪芳郎)

助かった! 『通信』No.1341最後の頁「コロナワクチン接種先送り」の私の投稿に呼応する

かのように届けられた藪芳郎さんのご意見と、新潟大学名誉教授の岡田正彦先生のネット解説「コロナワクチンの仕組みとその問題点について」の説明と図解は、簡潔で解りやすく助かりました。

解説を締めくくる岡田先生の訴え「薬は感染した人に用いるものですので、多少のリスクはやむを得ません。しかし、感染リスクがほとんどない健康な一般市民に、安全性がまったく保証されていないワクチン接種を強要するのは、もう犯罪でしかありません。皆様の賢明な判断に期待しています」が身に沁みました。「『このワクチンは安全だ』などという台詞は10年後」だとの話しも。

藪芳郎さんが執筆連載された本誌No.1253(「理科教育・事終わり」(「必要な知とは何かを問い続けて」とNo.1254(自分の頭で考えるためのかじ取りに必要な現状認識)を合わせて再読し、藪さんが今、やっておられることが理解できた気持ですし、私の疑問や不安も解けた次第です。

単価の安いイベルメクチンはノーベル賞受賞者の大村智さんが伊東市内のゴルフ場近くで採取した土壌から発見し、米国のメルク社が創薬・製造、20年以上年間3億人が使用している寄生虫の薬、重篤な副作用はほぼはないという。中南米やアジア等ではコロナ治療として使用し、効果を認める臨床試験結果が次々出され、尼崎市長尾クリニックの精力的な取り組みもあり、北里大学病院の医師主導の治験や、その効果や安全性を調べる臨床試験(治験)が、医薬品を手がける興和(名古屋市)によって引き継がれ、東京都医師会の会長も勧めていて、私はとつても期待していました。

しかし、創薬・製造元メルク社やWHO(世界保健機関)・米国のイベルメクチンの使用に反対し、日本もそれに追随。高額な新薬の開発・製造を最優先し、それを使用させたいがためか。ワクチン市場は年々拡大し、製薬会社などが払う政治献金も年々増えている。貧乏人の私はとても悲しい。まずは、手洗い・うがい・換気、腸内細菌を豊にする食生活、適度に体を動かし血液循環良くし、十分な睡眠で疲労回復、ストレス貯めないで、コロナに感染しない、これを続けていくしかない。

8月24日は「全国薬害被害者団体連絡協議会」が厚生労働省の庭にある(1999年8月24日建てられた)「薬害根絶 誓いの碑」の前で、厚労大臣交渉をおこない、「要望書を提出しました。

要望項目に、コロナワクチン問題をも指摘し、HPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)やMMR(新3種混合ワクチン)の薬害被害で現在も重い症状に苦しみながら、不適切な情報や言動にいつそう苦しめられ、就学や就労の機会すら失われたままの問題も未解決ですし、コロナ禍の下、これまでの深刻なワクチン問題に上乘せするように、その解決求め今、会員が増えているとのこと。

この度のコロナワクチンでも「厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会」8月25日の会議までに検討された、接種後間もなく亡くなった方1103人、強度の副作用で苦しんだ人は4万2575人。取り合ってもらえない人々も多数で不満が渦巻いています。なぜか統計的処理がなされ、一人ひとりの因果関係を認めようとしません。薬害根絶は、旧くて新しい問題であり、人ごととは思えません。

「全国薬害被害者団体連絡協議会」 <http://hkr.o.o07.jp/yakugai/>

「要望書」 <http://hkr.o.o07.jp/yakugai/kouseisyu/kousei-youbou2021-8.pdf> (滝野嘉津子)